

平成28年度第1回 習志野市地域支え合い推進協議会 会議録

【開催日時・場所】

平成28年12月15日（木）13時30分から15時55分  
習志野市保健会館別館

【出席者】

（委員）※50音順

大川委員、神田委員、木野委員、佐藤委員、沢田委員、杉本委員、杉山委員、  
鈴木委員、西野委員、平賀委員、藤平委員、松丸委員、山下委員、  
（市）

宮本市長、遠山健康福祉部長、菅原健康福祉部次長、志摩高齢者支援課長、  
西川健康福祉部主幹、伊藤同課係長、野苺家同課主任主事

【傍聴人数】

0人

【次第】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長挨拶
- 4 事務局職員紹介
- 5 議事
  - (1) 会長及び副会長の選出
  - (2) 習志野市地域支え合い推進協議会について
  - (3) 習志野市生活支援体制整備事業の取組みについて
  - (4) 委員自己紹介・意見交換
- 6 その他
  - (1) 第2回協議会の日程について
  - (2) その他の連絡事項について
- 7 閉会

【配布資料】

- 資料1 習志野市地域支え合い推進協議会設置要綱  
資料2 委員名簿  
資料3 平成28年度第1回習志野市地域支え合い推進協議会  
～習志野市地域支え合い推進協議会について～  
資料4 習志野市生活支援体制整備事業の取組みについて  
資料5 生活支援体制の構築に関する報告書

【1 開会】

西川健康福祉部主幹の司会進行により、開会。

【2 委嘱状交付】

宮本市長から、出席の全委員に対し委嘱状を交付。

【3 市長挨拶】

宮本市長から、委員に対しあいさつ。

【4 事務局職員紹介】

遠山健康福祉部長より事務局職員を紹介

## 【5 議事】

### (1) 会長及び副会長の選出

互選により山下興一郎委員が会長に、沢田信彦委員が副会長に選任された。

＜山下会長＞

会長をお引き受けするに当たっては、沢田副会長や委員の皆さまの協力を得ながら会の運営に努めてまいりたい。

市長の挨拶にもあったが、日本が先進国として成熟していくに当たって「老い」の問題がある。「老い」そして「死」も含めて考え保健と医療と福祉を地域社会の中でどう進めて行くかについて、行政の仕組みを整えるのも当然必要だが、そこに市民が参画する時代になってきた。それゆえ今回、こうした協議会を設置しての地域づくりが始まるのであるが、個人と家族と地域社会を串刺しで見た上で制度を考えていくことがこの協議体の役割なのだと思う。

この協議会が賑わいのある話し合いをすることで、市民の方も楽しくまちづくりができるを考える。にこやかに、時には厳しくご意見を頂き、メリハリをつけた話し合いができることが良いことかと思う。

＜沢田副会長＞

習志野市の事業所に着任してまだ日が浅いが、行政との距離が近い、一体感がある「まち」であると感じている。山下会長を補佐し、委員の意見を拝聴することで、良い会、そして市長の言うにぎわいのある習志野市の一助となればと思う。

### (2) 習志野市地域支え合い推進協議会について

(伊藤高齢者支援課係長より、資料3に基づいて説明)

＜山下会長＞

伊藤係長の説明を要約すると5つくらいになるかと思う。

要約の1つ目は、個人や家族の「支え方」がかなり多様化しているということである。多様化とは、きっちりと最期まで介護しますという家庭もあれば、どちらかという孤立していく家庭もあって、例えば、経済、住まい、子育てといった生活上の課題が、実は家族間で色々あって、今までの制度では十分に対応できないという家庭もある。

要約の2つ目は、介護予防という所に注目しながら「地域づくり」をして行こうということである。この「地域づくり」というのも事務局の説明のとおりではあるが、「地域づくり」の視点を3つくらい動かしてみようと思う。

1つ目の視点はハード面からの視点である。例えば、老いた先の最期の場所を施設でも病院でもない所で迎えるイメージ、最期を家で迎えるということはなかなか難しいことであるが「施設だけが最期の場所ではない。」というイメージが習志野市民の中にできていくかどうかという「地域づくり」である。

2つ目の視点はエリアからの視点である。総活躍社会で経済が活性化していくけれども、営利目的の企業は店舗を集約していくから、歩いて行ける距離に病院だとか、スーパー・商店街といった「資源」がない空白地帯が出てくることになる。歩いて行ける距離に自分の課題を解決する資源が全部そろおうというのが難しくなってくる。既に習志野市でもあるかもしれないが、歩いて行ける距離の中で解決できなくなる、あるいは車が運転できなくなるということに対し、どうやって私たちが補完するのかという「地域づくり」である。

3つ目の視点は、人のつながりや支えるという助け合いの文化がもう一回作れるかという視点である。行政や経済制度は基盤を整える役割を果たさなければならな

いが、むしろ私たちが考えていくのは助けたり助けられたりしながら生きていく環境づくりを「地域づくり」として考えなければならないということである。

要約の3つ目は、「給付」と「事業」の対比である。「給付」とは、全国一律利用できる介護保険制度のことである。これに対し、総合事業のような「事業」は習志野市が作るサービスであるという点である。加えて、その「事業」は、行政任せで作られるのではなく、皆で考え作っていくという事業・サービスであることに着目しなければならない。今後、この「事業」というところに注目をしながら議論が進められるかと思う。その「事業」を作るときには、営利目的のみで進めて行く事業展開ではなくて、市民の社会参加、特に高齢者の社会参加を通して、それが参加した市民の健康・予防にもつながっているという事業であることが今回の政策が打ち出そうとしていることである。それが上手く行くかどうかは政策的な課題になるかと思う。

要約の4つ目は、3つ目ともつながるが、支え合い活動を進めるための市民グループ等の活性化が図れるかということと、市民の方がそうした活動を「介護保険制度が変わるからという「やらされ感」やるのではなくて、生きがいを感じられたり、役割・出番って大事だなって思えたりする感覚を5年10年かけて作っていくということである。短期的な課題ももちろんあるだろうが、中長期的な視点をお持ちいただき、皆さんが5年10年後に「ああ、今日はこうだったな」と振り返られるまちなることが大事であると思う。

要約の最後は、生活支援コーディネーターのことである。これからお話しいただく杉山委員は生活支援コーディネーターをなさっているが、伊藤係長が「協議体は生活支援コーディネーターの組織的な補完をする」と説明していた。生活支援コーディネーターは、生身の人間として地域を行ったり来たりし、「誰の立場に立って何をするのか」ということを常に試される仕事である。私たちは杉山コーディネーターを組織として補完する立ち位置になるということである。

### (3) 習志野市生活支援体制整備事業の取組みについて

(本市の第1層生活支援コーディネーターである杉山委員より、資料4に基づいて説明)

#### <山下会長>

制度改正によって要支援の状態である人のホームヘルプ、デイサービスといった介護サービスが保険給付から市のサービスに移行することになった。総合事業の創設によって、全国一律の保険給付から市のサービスになることで、きめ細やかになって利用しやすくなり安心感を覚えると思われる反面、市町村の抱える財源問題によって、もしかすると利用しにくくなるのではないかという危惧が全国的にされて、国会等でもサービスが後退するのではないかという質疑が行われていた経緯があった。

そうした経緯から、ケアマネジャーや、既にサービスを利用している要支援状態の方、生活支援等のサービスの提供団体に対しアンケートを行い、ホームヘルプやデイサービスに関し、今何が必要とされているのか、それらを代替する仕組みが今のところありそうなのか、あるいは今後それを受けてくれる関心がありそうかどうかということ調査し、報告をしていただいたということである。

ちょっと面白いのが、17ページのNPO団体等に対する「地域に存在し、及び不足する生活支援等サービスの分析 担い手アンケート」である。「地域に存在する」というのは先程の大きな木の図の地下や少し上に上がった辺りに当たる。市民活動・NPO団体で多いのは「①保健、医療又は福祉の増進を図る活動」が多いこ

とが一般的で、割合にして5割を超える程度あるものである。これに対し、習志野市の特徴は「④学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」の方が高いという点が特徴的である。これを習志野は市民活動が盛んだと考察すべきなのか、行政による福祉サービスが充実しているのも市民がサービス提供を充実させようという方向ではなかったと考察すべきなのかは分からないが、特徴的である。

また、ホームヘルパーとデイサービスの充足状況などに関係するケアマネジャーに対するアンケートに関して、気になることが2つある。

1つは東習志野に関する結果である。15ページ、16ページのアンケートの回答について、大まかに「そう思う」と「そう思わない」で二分するようにして見たとき、東習志野の回答結果はほかの圏域と比較して特徴的であるといえることである。アンケート結果は、習志野市全体で見る視点と圏域ごとの差を見る視点のそれぞれが重要である。なお、この協議体は、習志野市の全部のことを考えることが役割であるが、全部のことを考えた次は圏域のことを考える必要がある。

もう1つは、デイサービスのことである。住民が担い手となる多様化を望まないという回答がホームヘルプよりも多く、3割を超えている。デイサービスに関して、ケアマネジャーに何かの考えがありそうに思えるところである。例えば、デイサービスは、赤字にまではならなくても介護報酬上は採算が取りにくい。この回答が、市民が集まってお茶を飲む場所が必要であるにしても、また、デイサービスの経営が厳しいとしても、デイサービスはあった方が良いというケアマネジャーの意思表示なのだすると、何か政策的な問題がありそうに思う。

今日は初回なので、制度の変化に関連して習志野市がどういう準備をしてきたかという議題（3）は、ひとまずここで区切り、議題の（4）に移る。

議題の（4）は、これからこの協議会が議論していくに当たり、各委員から、日頃取り組んで頂いている活動のご紹介や、地域の活動などを盛り込んでいただきながら自己紹介をお願いしたい。

#### （4） 委員自己紹介・意見交換

##### <松丸委員>

秋津高齢者相談センター（地域包括支援センター）で相談業務を行っている。また、圏域内のサロンの訪問も行っている。秋津圏域（秋津、香澄、袖ヶ浦、茜浜、芝園）はサロン活動が盛んである。

##### <西野委員>

藤崎地区の民生委員をしている。今回地区の会長になった。

習志野市に転入後、自治会長を7年務めた。住んでいる人がともに幸せになれるよう、子どもから高齢者まで家族のように仲良くなれるような仕組みづくりに努めてきた。

また、居住するマンションでネットワークを立ち上げた方が良いという意見があり、立ち上げた。月1回状況確認や情報交換をやっている。

大久保小学校の児童の登校時の交通安全ボランティアを10年行ってきた。また、学校の評議員も務めている。趣味でパークゴルフをやっていて、マンションの中で同好会を作って活動している。

##### <杉本委員>

谷津地区の民生委員をしている。この地域は、駅に近く利便性が良いが、約50年前に開発され一斉入居した地区であるため、色々な問題もある。

親を介護保険制度と近所の方に助けていただきながら最期まで自宅で看ること

ができたので、少しでも返せればと思っている。

民生委員の他、社会福祉協議会の支部で家事援助サービスのコーディネーターをしている。また、何年か前から子育てサロンを立ち上げ、係わっている。また、適した場所がないので、昨年からは自宅を開放してサロンを開いている。この他、今年からは市の転倒予防体操推進員となり、市の職員や先輩の推進員と一緒に、体操の場の立ち上げに取り組んでいる。今年は、シルバー人材センターの一員にもなった。来年1月にキャラバンメイトの養成講座を受講する。町会の役員をしているが、地域づくりの核はやはり町会であると思うので、町会の活動があまり活発でない所にはアドバイスをしている。

#### <藤平委員>

実籾地区にある「ならしの地域福祉事業所ぬくもり」の所長をしている。実施している事業は通所介護、訪問介護、居宅介護、精神障がい者の支援、移動支援、同行援護、安否確認を含めた配食等で、介護事業についての総合福祉拠点という形で事業を行っている。

地域との関わりについては、習志野市出身の落語家の桂伸三さんの寄席を、地域で年3、4回開催して10年になる。毎回70名くらいの方が落語を鑑賞してくれている。実籾連合町会と深いつながりができ、13町会と実行委員会を立ち上げ、平成28年12月17日こども食堂を開くこととなった。まずは地域食堂という形で、孤食の子どものほか、独り暮らしの高齢者、生活困窮者も含め、みんなで食べる食事を楽しんで頂く予定である。

事業所としては、地域で何が必要なのか、地域は何に困っているのかを考え、今やっている介護保険の事業を柱に、プラスアルファの新しい事業を起こす活動に専念している。

#### <佐藤委員>

マイプラン習志野訪問介護事業所で訪問介護をやっている。自分の子どもの小学校就学時に介護の仕事に就き、その子どもも22歳になるが、これまで、ほぼヘルパーだけをやってきた。デイサービスや施設も働いて楽しそうだとも思うが、皆さんの前で話すのが苦手なので、1対1の訪問介護を専門に行っている。

#### <大川委員>

大久保4丁目にある居宅介護支援事業所あろんぐらいふでケアマネジャーをしている。ケアマネジャーとしてサービス計画を作成するに当たっては、関係機関と連絡を取りながら、少しでも習志野市で生きがいをもって生活できればということを考えながら行っている。

私自身スポーツ観戦が好きで、要支援・要介護状態の方で興味のある方と一緒に観戦に行き、一緒に楽しめることができれば良いなと漠然と考えている。

要介護・要支援状態にある方の日々の生活に何かもう少し生きがいや目標作ってあげたいという実籾の赤松先生のご提案などがあり、昨年11月、介助者含めて12名で九十九里に出かけ、非常に楽しんで頂けた。今年は、文化ホールのクラシックコンサートに参加した。来年も行けたらと話しているところだが、介助する人を揃えることが必要なので、ご興味のある方は是非お手伝い頂きたい。

#### <平賀委員>

習志野市シルバー人材センターの事務局長をしている。シルバー人材センターは、60歳以上の会員は現在約970人いる。この方々に就業の機会を提供するために、会員の募集と併せて、地域貢献となるよう仕事場所を探しながら高齢者に提供して生きがい就業を支援している。

介護関係でも是非お手伝いができればより皆さんに喜んで頂けるかと思うので、ぜひ頑張りたい。

#### <杉山委員>

平成27年度より、市から生活支援コーディネーターを引き受けたが、普段は社会福祉協議会の16の支部に係わる事務を行っている。ボランティア・市民活動センターの長をしており、手助けを求めている方とボランティアをつなぐコーディネート業務をしている。

現在、自分のできる所からボランティア活動をしようと、不定期の土曜日に、自宅の駐車場に近所の子供を集めて、かき氷やたこ焼き作り、100円程度でできる手作りのおもちゃ制作などをした。こういったことを通して、いずれ我が子が小学校に上がり学童のお迎えなどができないときに、近所のお母さん同士でお迎えをすることができれば良いなと思いながら、地域の方たちと関係づくりを始めている。

#### <鈴木委員>

津田沼に住んでいる。35年間務めた仕事を辞め、市民カレッジに入った。そこで色々な講座を受け、ボランティアを始めた。親の介護を通して介護の勉強も始めた縁で、キャラバンメイトや転倒予防体操推進員をやっている。

サークル活動としては、月1回、菊田公民館で料理サークルをやっている。また、3年前から紙芝居のサークルをやっている。紙芝居は現在一番興味があることで、13名の会員で練習をしながら色々な施設でやらせて頂いている。高齢者向けの紙芝居も行っているので、委員の中でも要望があれば伺いたい。

#### <木野委員>

2009年に高齢者相談員を引き受けた時、住んでいる地域の高齢化率が40%を超えていたことから、「なぎさふれあいサロン」というサロンを立ち上げ、月2回開いている。うち1回はおしゃべりとてんとうむし体操を含めた体操をし、もう1回は映画会やカラオケ、市の出前講座などをやっている。有志の集まりなので、まず「お金を掛けない」をモットーに、人づてに、ご近所の方などをお願いして、絵の制作や工作や展示会、バイオリンの演奏会などをやってきた。近所にそういう凄い方がいらっしゃると感じている。サロン運営をする8名の半分が後期高齢者である。元気にやっているが、今後はそれ以外の方にも何か役割をもっといただくようお願いをし、少し輪を広げていこうかと思う。お客様として来ていただくだけではなくて、何かやってもらって輪が広がれば良いなとも思っている。

#### <神田委員>

生活協同組合パルシステム千葉で企画を担当している。業務の内容としては、総合事業の関係で生協として地域社会の中でどういった貢献ができるかということを考えている。他にも、平和活動や、先ほど子ども食堂の話が出たが貧困問題なども担当している。

今、皆さんのお話を聞いて、それぞれのご活動の中のどういった面で生協としてサポートできるかなということを考えていた。生協は組合員の組織であるが、組合員の方が地域とどうネットワークを作ってやっていくかということを探索できればと思った。

パルシステムの組合員が作るグループは、やはり食育とか子どもに関する団体が多かったが、最近は高齢者に関するもの、例えば、介護予防体操に取り組んでいる方などが現れてきて、少し変わってきたのかなと思っている。

#### <沢田副会長>

社会福祉法人豊立会で、習志野市立東部保健福祉センターの指定管理者として芙蓉園や東部デイサービスセンターの管理運営を行うほか、屋敷高齢者相談センターの委託事業を管理している。今は市外に住んでいるが、習志野市には縁があって、初め銀行に就職していたが、配属されたところが実籾にある銀行であった。銀行を退職した後、色々してから豊立会に就職したが、サラリーマン生活の最後に差し掛かってきたところで再び習志野市と仕事をするとするのはとても縁を感じる。

拝聴していて、素晴らしい志の高い方ばかりであるので、山下会長を中心に良い提案、具体的な提案を出して、習志野市に貢献したい。

#### <山下会長>

水・木・金と淑徳大学で仕事をし、土・日・月・火は大学外で仕事をしている。自治体とか社会福祉協議会などと仕事をさせて頂いている。一番興味があることは、事例検討といって、民生委員やケアマネジャーなどが訪問した事例について読み解いていくことをライフワークにしている。

#### <山下会長>

自己紹介が終わったので、今日のまとめに入る。

この協議会では、中長期的な視点で、「環境づくり」「地域づくり」といった「人と環境をどう耕していくか」ということを「介護」「介護予防」という言葉を使いながら、あるいは「住まい」や「医療」、「生活支援」という言葉を使いながら、皆さんと話し合いをしていくことが最初のテーマになるかと思われる。もちろん、急いで考えなければならぬ議題が事務局や生活支援コーディネーターから提案されることもあるかと思うが、いずれにせよ、今年度は「気持ち揃え」として、皆さんのご関心を少しくわいたことに寄せて頂いて話し合っていけば、それが習志野市全体と圏域という2層の考え方でできれば良いかなと思う。その上で、以下4点申し上げたい。

1つ目は、杉山委員からの説明であった市内58の団体のことである。これらの団体にどういう関心があるかとか、それが実際にできそうかとか、反対に率直な疑問などもあるかと思うので、次回とは言わないが、今後そういった点を整理していくとともに、興味のある市民の方に情報周知を図り、つなげていくことが生活支援コーディネーターあるいはこちらの方で進めて行くことだろうと思うので、次回以降の議題のどこかに入るかと思われる。

2つ目は、サービスとニーズのマッチングに関することである。介護サービスの利用者も、「サービスを利用せずなるべく自分で頑張りたい」という方もいれば、利用に慣れ過ぎて自立を阻んでしまう方もいて様々である。このうち、サービスを手控えている方、サービスを使ったらもっと良い生活ができると思われる方の視点に立つと、「私たちにとって必要なこと・必要かもしれないこと」というニーズと「その方がして欲しいこと」という要求とがずれているかも知れない。例えば、「お墓参りに行きたい」のに移動支援がないなど、人の感情や情緒といった部分に少し寄り添わないと「老い」が豊かにならないかもしれない。ニーズとその人の要求との関係の調整をすると、市民が手作りで支えたいということになるかも知れない。そうした協議もしていくことになろうかと思う。

3つ目は、生活援助の担い手養成に関することである。既に習志野市もシニアの担い手の養成をしていて、全国のいくつかのところでこうした養成が始まっている。その中には、教養講座として関心のある方が受講はしたが、その後続かないといった状況があるかと思う。こうした養成もしつつ、一方で転倒予防だとかサロン作りといった仕掛けを併せ持つていくことが必要である。他方、サロンで2時間く

らいお茶を飲んで話をしなければいけないと思うことが苦痛な人にとっては、一般的なサロンは厳しい。そこで、朝に交通の旗を振る手前でラジオ体操をするといった時間を町会などで作って、来なくなった人に声掛けを始めるといった、「短時間で集まってまた自分の生活に戻るコミュニティ作り」なども、バリエーションとして考えられる。

養成の問題に加えて、地域の方々が会って行く場やプログラムをかなり柔軟に考えていく必要があると感じる。なぜならば、「支えられるかもしれない高齢者」が担い手としてもターゲットともなっていくからである。

最後に、特に必要な領域として「移動」と「食」に関することである。習志野市には、「食」の方は既に事業があるようだが、「暮らし・健康」と「移動」と「食」は、その次に「参加」に結びつく。担い手の活動を支援する点から、あるいは認知症の免許証問題がかなり本格的になっている点から、「暮らし・健康」と「移動」と「食」と、「参加」という観点で皆さんから色々なご議論いただければと思う。

## 【6 その他】

第2回協議会は、平成29年2月9日 水曜日 午前10時から12時の開催予定とした。

## 【7 閉会】